

プログラム17

エビはどこからやってくる？（環境保全活動）

目的

- ・ スーパーの商品がどこから輸入されているのかを調べるために、エビを例として調べる。
- ・ 輸入品の多さに気づく。
- ・ エビの輸出国について知る。
- ・ 資源の有限性などについて理解を深め、食を通じて私たちの生活を考える。

概要

近所のスーパーに出かけ、日ごろ私たちがよく食べている食べ物（水産物、今回はエビ）がどこで採れるのかを調べる。エビを輸出している国はどこかを知り、限りある資源（食べもの）についてどうしたらよいかや、私たちの生活と海外の環境がどのように関わっているかを考える。

対象

小学生から大人まで（人数は10～20名）

実施時期

特に選ばない。

所要時間

2時間～3時間程度



（株）オルタ・トレード・ジャパン HP より引用
<http://www.altertrade.co.jp/>

準備物

<調査～学習>

- ・ 世界地図（大きいものを1枚、小さいものをグループ数分）
- ・ 資料「エビ調査ワークシート スーパーにあるエビ調査」（参加者数分）
- ・ 筆記用具（参加者数分）
- ・ シール（いろいろな色のシール）
- ・ バインダー（参加者数分）
- ・ 資料「エビ輸入先ワークシート エビはどこからやってくる？」（参加者数分）
- ・ 資料「エビの生産に関する資料」

<振り返り>

- ・ 振り返りシート（A4 用紙、参加者数分）

内容

<スーパーでのエビ調査>

- ・ 参加者を5名程度のグループに分ける。
（あらかじめグループ分けをしておいてもよいし、集まった時点でランダムにグループ分けを行ってもよい。大人グループと子どもグループに分けて活動すると、子どもグループも積極的に参加できる。）
- ・ 導入として、子どもたちに好きな食べ物（おかず）、昨日の夕食などで食べたものをきいておく。エビが入るメニューがあがればそれに焦点を当て、エビがあげられない場合にはエビについて話をするすることで、今日のテーマであるエビを強調する（世界で一番たくさんエビを食べているのは日本人です、何でエビが好きなのでしょう？ などと問いかけてみる）。
- ・ 参加者に資料「エビ調査ワークシート」を配布する。
- ・ みんなで近所のスーパーに行き、エビの種類・原産国・天然養殖の別・おおざっぱな大きさ・数・値段を調べ、それぞれ自分の調査用紙に記入する。複数のスーパーに行くことができるようなら、手分けして調査してきてもよい。

<調査のまとめ、発表>

- ・ 各グループに分かれて、エビについて調べたことを出し合い、各グループで小さな世界地図に種類がわかるように印をつける。
- ・ 各グループから、エビの生産国について結果を発表する。大きさや1尾あたりの値段などから気づいたこともあわせて発表する。
- ・ 大きな世界地図にエビの種類ごと（ブラックタイガー、バナメイエビ、甘エビなど）に色のシールを貼る（エビの種類とシールの色の対応はあらかじめ決めておくとうよい）。

<エビについての学習>

- ・ エビの輸入先について、資料「エビの輸入先ワークシート」に色を塗って理解を深める。
- ・ エビを輸出している国々での、生産の様子を、資料「エビの生産に関する資料」やインターネット等で調べる。

参考：オルタ・トレード・ジャパン HP

（<http://www.altertrade.co.jp>）の商品案内「エコシュリンプ」を参考にしてもよい。



- ・ 資源の有限性や、食物連鎖を中心として生態系の重要性を伝える。
- ・ 自分たちの生活を振り返り、自分たちでできることを、各グループで考える。
- ・ 考えたことを全体で発表する。

<振り返り>

- ・ 今日の活動で気付いたことなどを、各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からやろうと決めたことなどを、みんなで発表しあう。

安全対策や配慮事項

- ・ 事前に活動主旨をスーパーに伝え、了解を得ておく。
- ・ 公共の場でのマナー（買い物客の邪魔をしない、騒がない、走り回らない、商品を丁寧に扱う、いじくらないなど）を守らせる。
- ・ 子どもグループを編成する場合は、必ず大人が付き添うこと。ただし、その場合大人は子どもたちの安全確保に努めることとし、活動内容にはなるべく踏み込まないようにする。
- ・ 実施時間が場合は適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるのもよい。

展開や応用

- ・ 他の食材について、同様の調査を行ってみる。
- ・ 私たちの日頃の食生活が、世界の食料資源の枯渇等に繋がっていることへ気づき、外国で起きている問題に関心を持って調べたり、消費のあり方を考えたりする活動につなげる。
- ・ 食べ物が私たちのいのちを支えていることを再認識することで、食を通じて生活を見直す活動につなげる。

プログラム提供団体

団体名・担当者名 富山 YMCA 地球っこスクール 土肥和美（どい かずみ）

住所 富山市堤町通り 1-3-14

電話番号 076-425-9001

電子メール toy-ymca@pl.coralnet.or.jp k-doi797@ymcajapan.org

ホームページ <http://www.ymcajapan.org/toyama/jp/ymca/index.html>

団体の概要 地球っこスクールでは、自然、環境、国際、異文化などいろいろなテーマのもと、自分たちの住む地球について体験学習を通して考えます。こうした活動を通して「いのちの大切さ」を、そしてそのいのちを育み支える母体となっているのが地球であることを伝えていきます。環境・科学実験には専門講師が入ります。内容は、館外活動（田植え・ミサゴとホテルの観察・イグルー作りなど）、館内活動（おもしろ科学実験・フェアトレードなど）などです。